

2019.4
No. 42



佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

先進総合機能回復センターが再整備されました



先進総合機能回復センター長 倉富勇一郎

病院再整備の中で先進総合機能回復センターが新しく広くなり、入院患者さんの早期の機能回復を目指した急性期リハビリテーションを、さらに充実できるようにしました。

まず、これまで離れていた理学療法室、作業療法室、言語療法室が一体となり拡充され、あわせて369㎡と2倍の広さになりました。また、作業療法室には高次脳機能検査など行う評価室（個室対応可能）が2部屋新たに整備され、非常に明るく広くなり患者さんにとっても好評です。言語療法室は2部屋から3部屋へ増室し広さも37㎡となり、個室対応で非常に使い勝手が良くなりました。

また、新規にリハビリ機器も整備



▲新しくなった先進総合機能回復センター

された。ハイローテーブル1台（車いすに乗ったまま作業できる）、スタンディングテーブル1台（立位で作業ができる）、移動式オーバーヘッドフレイム1台（自動介助で肩関節運動が可能）、トランスファー手すり1台（移乗動作の練習で使用）、言語療法テーブル1台、プラットフォームマット2台などです。1つ1つのリハビリ機器を有効活用し、これまでできなかった理学療法や作業療法を展開しています。

センター内には新たに療法士控室とカンファレンスルームが整備され、医学科や療法士養成課程の学生の教育、療法士の学会発表準備など、学問を研鑽する場として使用できるようにしました。さらに、北側には卒後臨床研修センターも移転しており、研修医にリハビリテーションを身近に感じてもらえるようになりました。センターにとっても大きなメリットだと考えています。加えて北側玄関が完成し、アクセスも改善しました。

センターの理念「患者さんを中心にしてQOLの向上と早期社会復帰を目指すため、最善のリハビリテーションを提供します」を基に、センター長を中心に療法士一同、元氣一杯に頑張つて参ります。多くの診療科と協力・連携を取りながら佐賀県を牽引していく心意気で、今後も更なる自己研鑽に励み、努力していきたいと考えています。

検査部がISO15189の認定を取得しました



検査部 臨床検査技師長 川崎 誠司

平成30年11月、当院検査部はISO15189の認定施設として登録されました。

検査部では患者さんの検体（血液など）をお預かりし、時には心電図などで患者さんに検査室に来て頂いて、検査結果を医師へ報告しています。検査結果は診断や治療方針の決定に大きく影響するため、間違いは許されません。すなわち、検査を実施する施設には、「常に正確な結果を提供する能力があるか」が問われます。

昨年8月、ISO15189という国際的な基準で当検査部に「正確で適切な検査を実施して結果を出す能力があるか」を日本適合性協会（政府が指定した日本で唯一の認定機関）に審査して貰い、その認定を頂きました。

しかしながら私達は、これで満足することなく、「検査の質やサービスにゴールはない」と考えています。「もっと良い結果を出せないか」、「患者さんに満足して貰うために、検査手順をどう変えれば良いか」などを常に考え、内部監査、種々の技能訓練、組織運営のチェックや改善などを定期的の実施しています。

私達の最終目標は、「地域の皆さんに密着した検査部になる」ことです。これを目指して職員一同、一層の精進を重ねて参ります。



▲(左から) 相島病理診断科長、山下病院長、末岡検査部長、川崎技師長

診療科紹介

放射線科



放射線科長 入江 裕之

放射線科は佐賀大学医学部附属病院の中央部門の一つとして放射線部内で撮影される全身の画像（単純撮影、造影検査、CT、MRI、核医学、超音波検査など）に対して診断を行う部門と放射線治療を行う部門からなる診療科です。これらを通して院内各診療科はもちろん地域医療機関に対する支援を行っています。同時に日々進歩する機器や診断方法に対応し、より安全で有用な検査方法などの情報提供も行っています。個別には各診療科での術前カンファレンスに参加して画像面からの各患者さんの状況に対して意見を述べ、治療に対しての問い合わせにも応じています。

さらに、全国的にも特徴的なのは外来検査の即時対応に加え休日を含めた24時間体制での緊急検査・治療にも対応していることです。近年、外傷や咯血など手術では対応できないような緊急出血に対して血管造影手術を用い止血を行うIVR（Interventional Radiology：画像下治療）が増加傾向で救急部門と連絡をとりながらの夜間対応も増えています。核医学ではPET（Positron emission tomography）やその他核種による各臓器の機能的診断に加え、ラジウム核種を用いた前立腺癌骨転移などの治療にも対応しています。

治療部門では悪性腫瘍に対する照射を入院および外来患者さんにも行っています。子宮頸癌では腔内照射が行える佐賀県唯一の施設になっています。

これらを、診療科長を中心に研修医を含めて15名で行っています。画像情報に対する需要が増加の一途をたどる中で被曝管理を含めた安全管理を厳重にし、患者さんにとってより安心で高度な診療を目指しています。（文責 診療教授水口 昌伸）



▲術前カンファレンスの様子

2東こどもセンターをサガン鳥栖選手が慰問



2階東病棟
看護師長 佐保 直子

平成30年12月3日、サガン鳥栖の権田修一選手（GK）、小林祐三選手（DF）、三丸拓選手（DF）、河野広貴選手（MF）、原川力選手（MF）が佐賀大学医学部附属病院こどもセンターを訪問してくださいました。入院中の子どもたちはカンファレンスルームに集まり、選手たちを大きな拍手で迎えました。選手たちの挨拶の後、リフティングの披露、一緒に記念撮影やサイン会などの交流後、小さい子供たちとサッカーボールを手で転がしながら遊ぶなど微笑ましい光景がみられました。選手の方々は、病室から出れない子供たちの部屋を一部屋ずつ訪問し選手からプレゼントをもらったり、握手したり、一緒に写真撮影をして子どもたちも終始笑顔でした。最後に、サガン鳥栖全選手のサイン入りサッカーボールとユニフォームがプレゼントされました。病棟の宝物として、今は、こどもセンターのカウンターにサインボールと廊下にユニフォームを飾っています。



▲サガン鳥栖選手のサイン会



▲子供に話しかける権田選手



▲サガン鳥栖選手と集合写真

平成30年度 文化コーナー

俳句（社日本伝統俳句協会会員「玉藻」同人 木下みね子・万沙羅 選）

- 立春の 風にこぎ出す 車いす 小田 慶喜さん
- 秋の夜 吾子に折り鶴 またひとつ 古賀 明美さん
- 雪だるま 小児病棟 中庭に 砂山 恵子さん
- 病みてなほ 生きる力の 初日かな 塚見 佐登さん

川柳（佐賀大学医学部附属病院広報委員会 選）

- 病人に やさしき医師も 高齢化 江口 信義さん
- 受付で 夫婦で探す 診察券 古賀 明美さん
- 血圧も 妻の機嫌も 日々チェック やんちゃんさん
- 我信ず 笑いのちから 医者要らず 西分 慶雄さん

たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。優秀作品に選ばれた方々の作品を紹介します。また、病院ホームページや外来口ビーに全作品を掲示しておりますので、是非ご覧ください。



▲院内学級の児童生徒による作品

多数傷病者発生を想定した災害訓練



災害対策室長 安西 慶三

佐賀大学医学部附属病院は県の災害拠点病院として、万一の災害で多数の傷病者が発生した際にその責任を十分に果たすべく、5年前から机上訓練と実動訓練を毎年1回ずつ行ってきました。本年度は、大規模地震対応消防計画に対応した災害訓練及び多数傷病者発生を想定した災害訓練について、机上訓練を10月26日（金）、実動訓練を11月24日（土）に行いました。

訓練の想定は、「佐賀市で震度5弱の地震が発生し、長崎自動車道で大型トラックが大型バスに追突する事故が起きた。追突された大型バスは弾みで高速道路から落下、多数の傷病者が発生している。多数の傷病者を受け入れなければならないが、地震によ



平成30年度 病院長賞

平成30年度病院長賞は、医療・看護技術等の開発、向上に寄与した左記の職員に授与されました。

検査部・病態解析係長 石隈 麻邪
3年前から取り組んできた検査部のISO15189取得に際し、実務担当として検査部全体の指導等に大きく貢献した。

看護部・副看護部長（地域医療連携担当） 石丸 浩美
平成22年から地域医療連携室の専従看護師として、本院の地域医療連携システム推進の貢献と在宅医療の推進、看護師育成等に努めている。

ECU・看護職員一同

平成26年からドクターヘリ基地病院として運営を開始している本院において、院内看護業務の他、医師同乗救急車、フライトナース等、多岐にわたる業務を行い、また、DMAT隊員として熊本地震への出動や院内の災害訓練の対応等、院内外における救急看護師として質向上に努めている。



▲病院長賞授与式

連携病院紹介

医療法人敬愛会 佐賀記念病院

【病院の紹介】

佐賀記念病院は昭和28年6月に水ヶ江に開設された内田胃腸科内科に端を発します。平成15年3月に現在の高木瀬町長瀬に佐賀記念病院として移転しました。標榜診療科は内科、総合診療科、整形外科、眼科、皮膚科、耳鼻科、小児科、麻酔科、歯科、リハビリテーション科、神経内科、形成外科等で常勤医21名、病床数177床の中規模病院です。現在は急性期病棟120床、回復期リハ病棟57床にて運用しており急性期病棟は1ヶ月の入院患者数約200名、平均在院日数約17日であり、また回復期リハ病棟の1年間の入院患者数約300名、在宅復帰率は80%（平成30年）でした。病院周辺には健診センター、介護老人保健施設、有料老人ホームなどを開設しており、予防医療から老人介護までシームレスな医療、介護福祉サービスの提供を心掛けております。

【本院との連携の状況】

日頃より佐賀大学医学部附属病院には多くの患者様を受け入れていただき、さらには回復期リハを含め、総合診療科、循環器内



佐賀記念病院院長 佛淵 孝夫

科、整形外科、一般・消化器外科、神経内科及び脳神経外科等から年間約600名の患者様をご紹介いただいております。職員一同心より感謝申し上げますと共に連携強化に努めていきたいと考えております。今後ともご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。（文責 副院長 内田 匡彦）